



障がいという問題を解決する 仲間を増やすために

ダスキン障害者リーダー育成
海外研修派遣事業 第29期研修派遣生 **あぜもと 彩美さん**

私を変えていった海外での経験

先天性の視覚障がい(弱視)がある畝本さんが、普通校から大学へと進学した頃のこと。障がい者の自立支援についてアメリカで学びたい、と個人研修生に応募。研修先での様々な経験から、「自分の障がいを相手に伝えること」「障がい者の権利を誰もが学べる機会をつくること」の大切さを知りました。さらに、日本には得られない経験を積むため、JICA青年海外協力隊の短期ボランティアとしてバングラデシュへ。日本では考えられないほどの厳しい環境に置かれている障がい者。そんな中でも差別や偏見を減らす活動を行う人たちとの出会いを通して、社会や環境が変われば障がい者も必ず社会参加できることを体験できました。



理解につながる“対話”を大切に

大学を卒業後、一般企業へ就職。その傍らで「多様性を認め合う共生社会を本気で実現したい」との思いから、畝本さん個人の活動が大きく広がりを



▲アメリカでの研修時(左から2人目)
(2010年7月~2011年3月)



▲活躍が認められ第19回
サフラン賞*を受賞(2021年)

*サフラン賞:職業自立し文化や福祉の向上に力を入れている若い当事者(視覚障がい者)へ贈られる賞。

<https://www.ainowa.jp>

「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」の主な事業として、地域社会のリーダーとして社会貢献を願う障がいのある日本の若者に海外研修を提供する「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」と、アジア・太平洋地域の自国のリーダーとして社会貢献したいと願う障がいのある若者を日本に招き学んでいただく「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」があります。



想いをつなごう。
その人の、その先へ。



ダスキンの「いま」と「これから」をナビゲート

ナビダス



株主優待ご利用ガイド

